



秋本議員の再生エネ永田町報告



こんにちは、衆議院議員の秋本真利です。

2月8日の予算委員会に続いて2月25日の予算委員会第七分科会でも質疑に立ちました。前回の予算委員会ではほとんどの時間を卸電力市場価格の高騰問題に時間を使い、他の質疑が全然出来なかったもので、今回はその際に積み残した質疑を中心に組立てました。

まず、風力発電の環境アセスメント手続について、内閣府のタスクフォースにおいて規模要件を5万kW以上に見直すべきという意見を受けて、環境省において重ねている議論の進捗状況について確認しました。また、アセス期間を半減させるための取り組みにおいて、経産省が関与する評価書のプロセスでも時間がかかっているという指摘をしました。経産省からは、「手続の迅速化に向けて、原因を分析して環境省とともに対策を検討したい」という前向きな答弁がありました。

また、洋上風力発電を設置するために欠かせない基地港湾について、私が国土交通大臣政務官であった頃に20数社の洋上風力発電事業者に、事業規模や建設時期等を詳細にヒアリングしたのですが、実は今でもこの時のデータが施策展開に利用されています。しかし、風車の大型化は日進月歩のスピードで進んでおり、当時は最大でも10MW程度だったものが、今や13MWや14MWといった規模になりつつあります。ひと昔前のデータで基地港湾の設計をしていると、現在の風車の大きさに必要なスペックを満たさない懸念があります。この点について指摘したところ、国交省からは、将来の大型化にも対応可能となるよう基地港湾に係る検討を進めているという答弁がありました。

最後に、電力需給ひっ迫に伴う卸電力市場価格の高騰についても、2月8日とは違った視点で質疑をしました。特に、JEPXの発電情報公開システム(HJKS)の情報と広域機関の出す最大供給力予想が大きく乖

離している理由、燃料制約等の情報開示、グロス・ビディングの透明性等について、与党議員としては少し厳しめの質問だったかもしれませんが、しかし、今回の市場での各プレイヤーの動きを鑑みると、公正で適正な取引が行われていたかについては、私は大きな疑問を持っています。この問題について

は、引き続き再生エネ議連でも取り扱っていきたいと思います。

3月上旬に東京ビッグサイトで開催されていたスマートエネルギーweekを視察してきました。一番の目的は、ペロブスカイトだったのですが残念ながら私の期待に沿う展示はありませんでした。各方面に問い合わせ視察の段取りをしており、緊急事態宣言が解除され次第、視察に行つてペロブスカイトについて勉強してくるつもりでいます。また、太陽光発電の展示エリアで感じたのは、転売案件の表示が激減していることでした。FIT法の改正等によって、未稼働案件に一定のメスを入れた効果かもしれません。

(自民党再生可能エネルギー普及拡大議員連盟事務局長・秋本真利)

風力発電環境アセスの
手続き迅速化に期待

